

シラカバナガタマムシ

シラカンバ幼木の幹がこぶ状に膨らんだり、樹皮が螺旋状に盛り上がる。その部分の樹皮下に白いイモムシ（幼虫）がいる。または、木くずの詰まった潜り痕がある。

まれに多発する。



1. 被害枝. 1989/9. 置戸町, シラカンバ.



2. 被害枝縦断面. 1988/7.



3. 幼虫. 1988/7.



4. 成虫.

【学名】 *Agrilus* sp.

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , タマムシ科 (Buprestidae)

【特徴】

幼虫は最大長約10mm. 尾端に2本の黒いトゲがある. 成虫は体長約5mm.

【生態】

宿主：シラカンバ.

加害された木や枝を秋に採取し室内で保管したところ、翌年の6月下旬から7月上旬に成虫が羽化した.

幼木の幹では直径2~3cm付近を穿孔することが多い. 幼虫は形成層やその近くの内樹皮や辺材を食べながら、幹を螺旋状に穿孔する. 穿孔部位はこぶ状に膨らんだり、螺旋状に盛り上がる.

【被害と防除】

まれながら造林直後に多発することがある。穿孔部位から上の部分がしばしば枯れる。被害木の本数率はときに60～80%に達する。ただし、上部が枯死しても、その次の年に地際からの萌芽がみられる。被害による真の枯死率は調査されていない。防除方法は確立されていない。今後の調査を待たなければならないが、萌芽率がとても高ければ防除は不要と考えられる。

【文献】

*1991. 原秀穂, 北側善一. シラカバナガタマムシの被害と生態. 光珠内季報, 85: 1-3.

*1992. 福山研二, 前藤薫, 東浦康友, 原秀穂. 平成3年度に北海道に発生した森林昆虫. 北方林業44: 271-274. (被害記録)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

シラカバナガタマムシ hoka/siratama/
kaisetuh.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/9/10.

higaieda.JPG, yochu.JPG, seichu.JPG

「写真1, 3～4」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1988-1989.

senko.JPG

「写真2」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1988.